



理学 金井文彦 社長

導電繊維、用途開拓に力

▼…社長就任からほぼ一年が経過しました。

「当社は理化学機器商社だが、近年は従来から

理学は表面抵抗値の調整が可能な導電性繊維「ファンタロン」を開発し、このほど販売を開始した。2016年10月に社長に就任した金井文彦氏は、「ファンタロンは、自社で開発した導電性ポリマー『Riechikou』(アールアイシーピー)を基に開発した。すでに国内の繊維加工メーカーから引き合いが寄せられている」そう、今後の成長に期待を寄せている。金井社長に「ファンタロン」の事業戦略や、新しいテーマへの取り組みなどについて聞いた。

「半導体など電子デバイス関連市場で使用されることもあって評価に時間がかかっている。ただ

扱ってきた商材の成長が見込みにくい状況となっていることから、新規事業としてRiechikouを開発し、10年に製造、販売を開始した。社長就任からこの3月までは東京で活動し、本社に着任してきたのは今年の4月に入ってからになった」

▼…Riechikouの最近の状況は。

最近では、導電性ポリマーの使用量が増加傾向にある台湾や中国など海外の企業にサンプルを供給しており、将来的な成長を見込んでいる。一方、半導体関連市場以外での利用増を見込み、15年頃から繊維分野で利用できる製品への取り組みを開始。課題を解決した後、17年初めにファンタロンを完成させた。繊維に關する材料には「ロン」

▼…ファンタロンの見通しは。

「繊維加工メーカーにアプロウチしているが、衣類への帯電防止効果によって静電気による火花が発生しないことや、ほこりが付着しにくいことなどが評価され、安全靴などに使用されるインソールへの採用が決定した。今後は作業着や手袋、下着などの衣類や被覆、自動車用シート、工場で使用される集塵用バクフィル

▼…今後の目標は。

「Riechikouに関連する製品展開ではこれまで蓄積した技術を生かし、大学とも連携して新規用途の開発を進めていきたい。すでに電子関連材料や空調設備用材料への取り組みを進めている。当社の創業50周年となる22年度までに、Riechikouを中心とする新規事業の売上高を全体の5割まで引き上げたいと考えている」(聞き手「東坂慎二」)

ターなどへの利用を想定している。さらに作業員の脈波などを計測して健康管理に利用できるウェアラブル用途への展開も期待できそうだ」

新規事業 売上比率 5割めざす

▼…今後の目標は。

「Riechikouに関連する製品展開ではこれまで蓄積した技術を生かし、大学とも連携して新規用途の開発を進めていきたい。すでに電子関連材料や空調設備用材料への取り組みを進めている。当社の創業50周年となる22年度までに、Riechikouを中心とする新規事業の売上高を全体の5割まで引き上げたいと考えている」(聞き手「東坂慎二」)